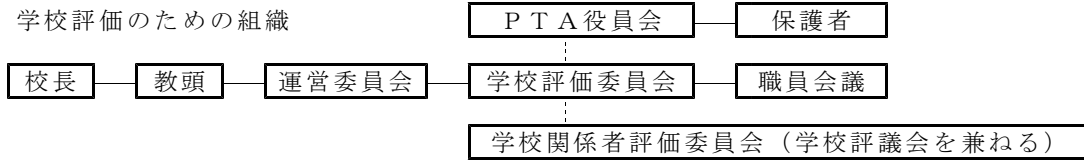


9 学 校 評 価

(1) 学校評価のための組織



(2) 学校評価の年間計画

月	実施計画	月	実施計画
4	重点目標・具体的方策の確認 評価基準の決定	12	アンケートの実施 (保護者対象・生徒対象)
5	前年度の評価結果と課題及び今年度の重点目標等の公表 (P T A 総会時)	3	学校関係者評価委員会の開催
		3	評価結果と課題の確認 来年度計画策定

(3) 本年度の学校評価

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な進路情報の発信ときめ細かな面接指導により、個々の進路実現に向けて、高い志を持ちながら努力する生徒を育成する。 S S H 事業による教科「課題研究」を柱とした教育活動を推進することで、生徒の主体的・協働的な学びを充実させ、国際社会に貢献できる人材を育成する。 部活動や生徒会行事に積極的に参加させ、心身ともに健康で社会性に富んだ若人を育成する。 既存の組織を活用しながら、業務改善に向けた取組を行い、多忙化の解消に努める。 教育のデジタル化や「学校の新しい生活様式」に合わせた教育環境に対応するよう努める。 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
P T A 活動 (総務部)	① P T A 活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> P T A 諸会議の報告事項の再検討 各種委員と広報委員の活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 諸会議を通じて、学校における教育活動の内容を丁寧に保護者に知らせ、興味をもって学校と連携して生徒の教育に携わることができる環境を作る。
学習指導 (教務部)	① 基礎学力の定着と応用力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味関心を喚起し、深い学びを促す授業実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教科で新学習指導要領に沿った、授業改善を行いつつ評価方法を具体的に定める。
	② 授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 指導法や教材活用法、学びを深めるための授業形態について教員相互の情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学ぶ学習機会を充実させ、I C T を活用することにより教授法や教材開発に努める。
進路指導 (進路指導部)	① 進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「進路だより」の定期的な発行 「進路研究」により進路意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路だより」の内容が確実に保護者にも伝わるよう、学年ごとに工夫し、家庭と連携した進路意識の向上を目指す。
	② 進路情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 学年全体への効果的進路情報発信 個々人に対応した面接指導実施ときめ細やかな進路情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供量が過多にならないよう取捨選択をし、多くの必要な進路情報を提供する。 個人の希望に応じた情報が入手できるようにする。
	③ 校内課題・実力テストの活用	<ul style="list-style-type: none"> 校内テストの事前学習と事後復習の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 校内テスト内容の教科ごとの検討機会を増やし、生徒の事前学習・事後復習への指導を充実させる。
生徒指導 (生徒指導部)	① 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻数の減少 正しい制服着用の徹底 職員間の共通理解 	<ul style="list-style-type: none"> 不注意遅刻の減少。 指導内容の明確化と基準の共有を図ることで、全職員による指導体制の確立を目指す。 職員及び関係分掌や学年間の連携を強める。
	② 登下校時の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導の徹底と事故の減少 緊急情報等の情報提供 自己の安全意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車安全利用など法令の周知徹底を図るとともに、自己の安全管理に対する意識を向上させる。 緊急情報、不審者情報を適切に伝達する。
	③ 道徳心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルの向上 公共の場でのマナーの向上 	<ul style="list-style-type: none"> 集会や学校行事などの機会を利用して意識の向上を図るとともに、個別指導の徹底を強化する。 事例を含めた具体的な指導を心掛ける。
	④ 防災意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の対応法を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の対応の確認を行う。 各種防災事業や地域と連携する。
生徒会・学校行事 (生徒会部)	① 生徒会活動の活性化と生徒会行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自発的な活動の尊重 職員、保護者の共通理解 ボランティア活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度からの課題の引継ぎを確実にし、自発的に企画の改善、立案や議論ができるようにする。 代議員会を重視し、全校生徒の共通理解が得られるようにする。 各行事において美化、安全面等についても、配慮できるように、自覚を促す。 職員、保護者への連絡や協力のもと、安全に学校行事を実施する。 ボランティア活動の充実を図る。
	② 部活動の持続的運営	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性、自発性の促進 部活動ガイドラインの遵守 職員間の負担の公平化 部活動の再編 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動ガイドラインについて、遵守の徹底をさらにお願していく。 全職員への連絡の徹底と H P を活用した保護者への情報発信を行う。 持続的運営に向けて、顧問の持ち方、部活動の再編について、引き続き検討を行う。
図書指導 (図書研修部)	① 図書館の有効利用と蔵書の充実	<ul style="list-style-type: none"> 図書館報や図書館だよりを通じて図書館の魅力を周知する。 蔵書図書を充実させる。 教科との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 新規購入図書等の紹介を適宜実施する。 生徒の興味・関心のある図書を充実させる。 授業利用に求められる配架の工夫や図書の収集を行う。
	② 委員会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自発的工夫やアイデアの委員会活動への反映 	<ul style="list-style-type: none"> 従来の活動についても生徒自身のアイデアや工夫を発言しやすいようにし、実現を図る。
	③ 現職研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業参観週間の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業参観週間に他分掌と連携し、より充実したものを旨とする。

情報 (教務部)	①情報機器管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器の整理整頓 情報機器の利用規程・利用マニュアルの作成 I C T機器の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器リストや利用マニュアルの更新を行う。 点検の機械を増やし、より細やかな管理体制を築く。 職員会議等で定期的呼びかけを行う。
保健指導 (保健部)	①感染症対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な感染症予防への啓発活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが感染症予防(手洗い、換気の励行など)に努めるようにさせる。
	②健康管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「保健だより」の定期発行だけでなく、季節時事に応じた健康問題や留意すべき内容にもふれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の健康状態を正しく認識し、健康の自己管理ができるようにさせる。
	③清掃活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの減量化、分別の徹底清掃活動を充実させ、教育環境の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別、持ち帰り、リサイクルの呼びかけをし、教育環境を整えることに努める。毎日10分間の清掃を充実させる。
教育相談 (教育相談部)	①問題を抱えた生徒の早期発見と相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学年団と連携し、問題を抱えた生徒の早期発見と、保護者も含めた相談の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談室だよりを定期的に発行したり、相談室内を整理したりすることで、生徒や保護者が相談しやすい雰囲気を作る。 担任会や学年会からの生徒情報をこまめに整理し、言動等で気になる生徒を早めに気づけるようにする。
	②教員間の情報共有	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な生徒の情報とその対応について、研究会やプリント配付により、教員間で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ不登校対策委員会の記載項目を検査し、教員間でより情報を共有しやすい形をつくる。 生徒に関わる事項をテーマにした相談室だよりなどを利用して、情報や対応について周知する。
国際交流 (総務部)	①海外生徒との交流を通じた国際理解	<ul style="list-style-type: none"> イートン交流等を通じ、同世代の海外の学生とのふれあいの場を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の日本と世界が抱える諸問題に対し、理解を深める機会を多く持てるように指導する。 オンライン等も広く利用して、海外の学生との交流の機会を増やす。
SSH開発 (SSH開発部)	①SSH科目の充実	<ul style="list-style-type: none"> エージェンシーや資質能力の向上を目指したSSH科目のカリキュラム開発及びマトリックス等を作成し、教科連携・教科横断的にSSH科目を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部や情報研修部、各教科会及び学校マネジメントプロジェクトやSSH科目担当者会議との連携を図る。また、探究系のカリキュラム開発も重点的に取り組む。
	②課題研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教科「課題研究」における課題研究の指導法及び評価法の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科会や学年会と連携し、一層の組織的な指導体制を確立すると共に、パフォーマンス評価の充実を図る。
1年生指導 (第1学年)	①基礎的な生活習慣・学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 各HRや集会を通して、基礎的な生活習慣・学習習慣の重要性を理解させる。 定期考査や行事後の振り返り活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒面談、生活実態調査、定期考査の結果を基に具体的なアドバイスを行う。 2年生以降の探究・文・理系の選択のために、各教科の学習を主体的に学ぶようにさせる。
	②目標「質実剛健な人になる」のもと、何事も主体的に取り組む姿勢を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会、学年通信で定期的に目標を確認させる。 「あいさつ・清掃」、「授業をしっかり受ける」、「学業・行事+αに真剣に取り組む」、「夢を持つ」ということを伝え続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業をしっかり受けることを基本に、部活動、行事その他活動に主体的に取り組むようにサポートする。 学年通信を毎月発行し、目標に対して前向きに進めるようにアドバイスを図る。
2年生指導 (第2学年)	①未来を生きるための地盤となる力を育む	<ul style="list-style-type: none"> 集団行動を通して、集団生活における自己の役割について考え、規律的・自律的に考えて行動できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行を学校生活前半の集大成と位置づけ、集団生活における個々の役割を考えさせる。 日常生活や学校行事の際に、集団の中での生活を意識させる指導をする。
	②自己の将来像の模索と進路設計	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査や面談を実施する。 進路検討会や進路LTで生徒向けの進路行事を実施し、進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査を実施して進路意識の確認を行うとともに、面談を通して将来像や進路設計に関して助言を行う。 学年会や進路検討会を通して教科・進路指導部・学年団の連携を図り、多角的な指導を行う。
3年生指導 (第3学年)	①進路目標実現に向けた学習・生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 生活実態調査や担任面談、考査や模試の結果をもとに生徒の実態把握に努める。 職員間の情報共有や保護者との連絡、相談をこまめに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業が学習の基礎基本となることを意識させながら、学習習慣の確立を促す。 学習を中心として、他の様々な行事や部活動との切り替えができるよう促す。
	②最高学年としての自覚を養う	<ul style="list-style-type: none"> LTや学年集会を通して、統一的な意識づけを行う。 適宜生徒面談を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 最高学年としての自覚を持たせ、責任ある自発的行動がとれるように促す。 学校生活のすべてが生徒の心身の成長に繋がることを意識して指導を行う。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 学習指導における授業の充実について 進路指導における進路意識の向上について 生徒指導における道徳心の育成について 生徒会・学校行事における学校行事の充実について いじめの把握といじめ不登校対策委員会の活動について 在校時間状況の確認による勤務時間の管理について 	

(4) 前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な進路情報発信し、進路意識の向上を図る。 部活動や生徒会行事に積極的に参加させ、心身ともに健康で社会性に富んだ若人を育成する。 既存の組織を活用しながら、業務改善に向けた取組を行い、多忙化の解消に努める。 探究系をはじめとするSSH事業による教科「課題研究」を柱とした教育活動を推進することで、生徒の主体的・協働的な学びを充実させ、国際社会に貢献できる人材を育成する。 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
PTA活動(総務部)	①PTA活動の充実	・PTA諸会議の報告事項の再検討	・PTA常任委員会や学年PTAの会を通じて、学校における教育活動の内容を丁寧に保護者に知らせ、保護者と学校が連携して生徒の教育に携わることができる環境を作った。HPでの情報提供を心掛けた。
学習指導(教務部)	①基礎学力の定着と応用力の育成	・生徒の興味関心を喚起し、深い学びを促す授業実践を行う。	・新学習指導要領への対応やICTを利用した授業の実施など、授業改善を進めている。
	②授業の充実	・指導法や教材活用法、学びを深めるための授業形態について教員相互の情報共有	・生徒が主体的に学ぶ学習機会を充実させるよう努めた。ICTを活用した授業が促進されるよう環境を整備した。
進路指導(進路指導部)	①進路意識の向上	・「進路だより」の定期的な発行 ・「進路研究」により進路意識を高める。	・「進路だより」、生徒向け進路通信「質実剛健」の内容を共通する部分を増やし、保護者や生徒が共有できた感はある。
	②進路情報の発信	・学年全体への効果的進路情報発信 ・個々人に対応した面接指導実施と きめ細やかな進路情報の提供	・情報提供量が過多にならないよう取捨選択をし、多くの必要なる進路情報を提供できなかった。 ・個々人の希望に応じた情報が入手できるようにする。
	③校内課題・実力テストの活用	・校内テストの事前学習と事後復習の徹底	・校内テスト内容の教科ごとの検討機会を増やし、生徒の事前学習・事後復習への指導をより充実させる。
生徒指導(生徒指導部)	①基本的な生活習慣の確立	・遅刻数の減少 ・正しい制服着用の徹底 ・職員間の共通理解	・不注意遅刻者に対して効果的な指導ができた。 ・体育服登校を認めている中で、TPOに合わせた服装指導が困難であった。来年度は制服を定着させたい。 ・組織対応を目指し、教育効果を高めたい。
	②登下校時の安全確保	・交通安全指導の徹底と事故の減少 ・緊急情報等の情報提供 ・自己の安全意識の向上	・自転車安全利用など法令の周知徹底を図るとともに、自己の安全管理に対する意識を向上させる。 ・緊急情報、不審者情報を適切に伝達する。
	③道徳心の育成	・交通マナーの向上 ・情報モラルの向上 ・公共の場でのマナーの向上	・集会や学校行事などの機会を利用して意識の向上を図るとともに、個別対応を充実させる。 ・事例を含めた具体的な指導を心掛ける。
	④防災意識の向上	・災害発生時の対応法を徹底させる。	・災害発生時の対応の確認を行う。 ・各種防災事業や地域と連携する。
生徒会・学校行事(生徒会部)	①生徒会活動の活性化と生徒会行事の充実	・生徒の自発的な活動の尊重 ・職員、保護者の共通理解 ・ボランティア活動の充実	・刈高祭など、各行事において生徒の自発的な活動がみられた。 ・新型コロナウイルスの影響で行事の中止、縮小を余儀なくされたが、保護者、職員、生徒の理解と協力のもとで刈高祭など行事を開催することができた。 ・ボランティア清掃を継続して行うことができた。
	②部活動の規律ある活動	・生徒の自主性、自発性の促進 ・部活動ガイドラインの遵守 ・職員間の負担の公平化 ・部活動の再編	・新型コロナウイルスの影響で制限がある中、安全に諸活動を行うことができた。 ・校誌やHPを活用した保護者への情報発信を一定程度、行うことができた。 ・部活動の再編を行うことができた。
図書指導(図書研修部)	①図書館の有効利用と蔵書の充実	・図書館報や図書館だよりを通じて図書館の魅力を知ってもらう。 ・蔵書図書を充実させる。 ・教科との連携	・新規購入図書等の紹介を昇降口に新たに掲示するなどして、より生徒の目につくようにした。 ・生徒の興味・関心のある図書の充実に努めた。 ・図書館オリエンテーションや読書会活動を実施し、図書の貸出冊数の増加を目指したが、多読の生徒が減ったため、貸出冊数は増加しなかった。 ・来年度も例年どおりのオリエンテーションと読書会を実施する予定である。
	②委員会活動の充実	・生徒自身のアイデアや工夫の委員会活動への反映。	・図書委員が新聞記事をもとに図書館で関連した資料を探し、展示する活動の回数を増やした。図書委員以外、展示した生徒たちにも働きかけ、図書館への関心を高める努力をする。展示内容の工夫を重ね、さらに活性化するように努める。
	③現職研修の充実	・校内授業参観週間の活用	・校内授業参観週間中に他分野と連携し、積極的な活用を促す。
研修(教務部)	①情報機器管理の徹底	・情報機器の整理整頓の見直し ・情報機器の定期点検の徹底	・情報機器リストや管理マニュアルの更新を行った。 ・点検の機会を増やし、より細やかな管理体制を築いた。 ・職員会議等で定期的に呼びかけを行った。
保健指導(保健部)	①感染症対策の充実	・継続的な感染症予防への啓発活動の充実	・生徒自らが感染症予防(手洗い、換気の励行など)に努めるようにさせた。
	②健康管理能力の育成	・「保健だより」の定期発行だけでなく、季節時事に応じた健康問題や留意すべき内容にもふれる。	・自己の健康状態を正しく認識し、健康の自己管理ができるようにさせる。 ・保健に関する関心を高めさせたい。
	③清掃活動の充実	・ゴミの減量化、分別の徹底 ・清掃活動を充実させ、教育環境の整備を図る。	・ゴミの分別、持ち帰り、リサイクルの呼びかけをし、教育環境を整えることに努める。毎日10分間の清掃を充実させる。

<p>教育相談 (教育相談部)</p>	<p>①問題を抱えた生徒の早期発見と相談の充実</p> <p>②教員間の情報共有</p>	<p>・学年団との連携による、問題を抱えた生徒の早期発見と、保護者も含めた相談の充実を図る。</p> <p>・支援が必要な生徒の情報とその対応について、研修会やプリント配布により、教員間で共有する。</p>	<p>・担任や学年会や支援助理として、生徒の悩みを共有し、必要に応じて、教員間で相談する機会を設けることのできなかった。</p> <p>・オンラインプログラムを、1人の生徒が利用した。他にもオンライン交流の機会を提供した。</p>
<p>国際交流 (総務部)</p>	<p>①海外生徒との交流を通じた国際理解</p>	<p>・イートン交流等を通じ、同世代の海外の学生とのふれあいの場を提供する。</p>	<p>・コロナ禍の影響により、海外の学生と直接交流をする機会を設けることができなかった。</p> <p>・オンラインプログラムを、1人の生徒が利用した。他にもオンライン交流の機会を提供した。</p>
<p>SSH開発 (SSH開発部)</p>	<p>①SS科目の充実</p> <p>②課題研究の充実</p>	<p>・エージェンシーや資質能力の向上を目指したSS科目のカリキュラム開発及びマトリックス等を作成し、教科連携・教科横断的にSS科目を実践する。</p> <p>・教科「課題研究」における課題研究の指導法及び評価法の充実を図る。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響も多少あったものの、各教科会やSS科目担当会議等と連携し、SS科目のカリキュラム開発及び実践を教科横断的に行うことができた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響も多少あったものの、理科会や学年会と連携し、組織的に指導にあたり、パフォーマンス評価の充実を図ることができた。</p>
<p>1年生指導 (第1学年)</p>	<p>①基本的な生活習慣・学習習慣の確立</p> <p>②将来に向けた進路設計</p>	<p>・各HRや集会を通して、基礎的な生活習慣・学習習慣の重要性を理解させる。</p> <p>・定期考査や行事後の振り返り活動を充実させる。</p> <p>・適時、生徒面談を実施する。</p> <p>・学ぶ意義について、生徒自ら考える機会を多く設ける。</p> <p>・自己や他者の長所を見つけさせ、文理選択の意識の充実を図る。</p>	<p>・連続する遅刻や欠席などに気を遣い、生徒の変化を見逃さないように注意した。</p> <p>・生徒の生活態度や生徒面談の内容を担任会などで情報共有し、組織的な生徒理解に努めた。</p> <p>・生活実態調査や生徒面談を効果的に実施した。</p> <p>・文理選択にあたり、本人の希望や考査等の成績から適性を照らし合わせ、将来像を描かせる取組を行った。</p> <p>・進路希望調査を実施して生徒の進路意識の充実を図るとともに、学年会での進路検討会によって生徒の実情を把握した。</p>
<p>2年生指導 (第2学年)</p>	<p>①個がたくましく、集団として団結する</p> <p>②考えて行動する。行動しながら考える。</p>	<p>・学習活動の様々な場面で個の役割を明確にし、それぞれが意識の高い集団を形成する。</p> <p>・修学旅行の成功を目標の1つとする。</p> <p>・一般的な社会のマナーを身に付ける。</p> <p>・学ぶ意義について考える。</p> <p>・進路や将来について想いを馳せる。</p>	<p>・1人1人が個の力を伸ばすことができるよう、個別面談や学年集会などを通して、丁寧な指導を行った。</p> <p>・修学旅行では集団の中の個の責任を自覚できるよう、事前準備や打ち合わせをきめ細かく行い、成功させることができた。</p> <p>・学年生徒指導部を中心として、規範意識を持ちながら学校生活を送れるよう指導を行った。</p> <p>・進路指導部と連携して大学の講義動画配信サービスなどを利用して、学ぶ意義や、自らの将来の展望について考える契機とした。</p>
<p>3年生指導 (第3学年)</p>	<p>①基礎的・汎用的能力の向上</p> <p>②進路実現に向けた学習習慣・生活習慣の確立</p>	<p>・適時、生徒面談を実施する。</p> <p>・マナーや時間、ルールなどの徹底をさせる。</p> <p>・生徒に自己の課題を明確化させ、解決に向けたPDCAサイクルをの確立を促す。</p> <p>・学習を中心に行事を含めた学校生活全般を充実できるよう促す。</p>	<p>・受験に向けて学習に集中できるようコロナウイルス蔓延防止のための啓発をした。</p> <p>・欠席遅刻過多者の日ごろの様子を気かけ、生徒への声かけを行った。</p> <p>・生活実態調査や考査、模擬試験の結果を基に、具体的なアドバイスを行った。</p> <p>・学校行事に悔いのないよう全力を尽くすよう訴えた。</p> <p>・学校行事の後には学年集会を行うなどして、学習への切替や意識高揚を図った。</p>
<p>総合評価</p> <p>本校の教育活動の4本の柱である学習・部活動・学校行事・SSH事業をとおして、すべてに全力で取り組む本校の気質を生かし、バランスの取れた人材育成を行っていることには保護者及び地域の有識者から一定の評価をいただいた。特にSSH事業においては、先進的な理数教育の取組は、今後も継続してほしいとの御意見を多数いただいている。一方で、保護者や地域に対する情報発信の点で御指摘をいただいております。今後改善の必要がある。</p>			

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施する 主な評価項目</p>	<p>・学習指導における授業の充実について</p> <p>・進路指導における進路意識の向上について</p> <p>・生徒指導における道徳心の育成について</p> <p>・生徒会・学校行事の充実について</p> <p>・いじめの把握といじめ不登校対策委員会の活動について</p> <p>・在校時間状況の確認による勤務時間の管理について</p> <p>・面接指導申出書の活用による健康被害防止について</p>
<p>自己評価結果について</p>	<p>・新学習指導要領がスタートし、主体的な学びやICT活用について積極的に検討した。また、評価方法についても議論し、指導と評価の一体化を目指した。</p> <p>・SSH事業における課題研究でも、主体的学びの評価について充実を図ることができた。</p> <p>・感染症予防の観点から、学校行事の見直しや環境整備等に積極的に取り組んだ。</p>
<p>今後の改善方策について</p>	<p>・中高一貫の導入に向けて、外部機関と連携しながら積極的に検討する。</p> <p>・生徒の公共心向上を目的に地域のボランティア活動への参加を積極的に勧める。</p>
<p>その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)</p>	<p>・中高一貫教育の導入が決まったが、6年間かけてどのように生徒を育てていくのか、ビジョンをもって取り組んでほしいとの意見があった。また、本年度から導入した探究系に関する取組についても、おおむね良い評価をいただいた。</p>
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<p>構成・・・学校評議員6名(保護者代表のPTA会長を含む)</p> <p>評価時期・・・1月下旬</p>